

2017年度学校法人 三幸学園 千葉リゾートアンドスポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 節田 春奈

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 山本 陽一

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にするというビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・人間性を高めるための教育実践

「スポーツを通じて健康と楽しさを提供する人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真の社会に役立つ人材輩出することができると考えている。

・高い現場力の醸成

現場で活躍するための基礎力を資格・検定取得をベースに各学科で重点項目として掲げ、指導内容の統一を行うほか、学科会・教科会を実施することにより、進捗状況の確認と教育の質の向上を実現できるよう計画している。

② 学校関係者評価委員会コメント

・卒業生の人間性が優れており、活躍している姿が伺えるので問題なし。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・業界のニーズに対応した人材育成像を生徒が理解し、具体的な目標として目指す将来像と合致させる
- ・各学科の育成像や育成人材像に関しては学科特性や新規カリキュラムなど未知数な部分はあるが、現場のニーズには適切に方向づけられている。挨拶やコミュニケーション能力はまだ初対面の人には弱い部分もあるので業界の即戦力となるよう現場実習などを通して指導強化していく

② 今後の改善方策

- ・保護者への定期的な文書などによる学校状況の報告を通じて教育内容の理解を促進
- ・早い段階から業界人講話、現場施設見学などにより、現場のニーズを理解させる

③ 特記事項

- ・教育理念、目標、人材育成像を体系化し全教職員への浸透を図っている。
- ・産学連携により、フィットネスクラブと提携を結び業界の即戦力となれる人材育成の為のカリキュラム等を共同開発している。
- ・入学後、保護者へのご挨拶の電話を実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

学校教育と求めている人材が合っている。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・グループウェアの活用した情報共有等による業務の効率化をさらに推し進める

② 今後の改善方策

- ・グループウェアの効果的な活用方法の理解促進
- ・生徒へ情報伝達ツールとして携帯で見られる掲示板も開設している

③ 特記事項

- ・2015年4月三幸学園システム推進室設置により、グループウェアの活用がより効果的・全社的に遂行できるようになった。
- ・年に3回の全教職員会議を実施し、運営方針の浸透・情報共有を行っている。
- ・効率化する為に、電子管理システムなどを取り組みたい。
- ・コンプライアンス委員会発足により、より法令順守を意識していく

④ 学校関係者評価委員会コメント

運営方針や運営制度について特に問題なし。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・実践的なキャリア教育を推し進めるために、業界・社会のニーズに沿ったカリキュラム・教育方法を最適化する。
- ・資格取得カリキュラムの体系的な位置づけは業界側からの意見として、資格取得状況は現場での評価や勉強する姿勢など評価できる部分なので就職先とリンクした指導が必要

② 今後の改善方策

- ・提携企業の協力により、教育課程の共同編成・シラバス開発を行う
- ・外部からの評価を行ってもらう
- ・能力開発の研修等を取り入れる
- ・就職先のアンケート・評価を行うことも検討していく(入社前・入社後のアンケート)
- ・多数の資格の動機付けや意識付けの期間を設けて学校全体での意識改善が必要 具体的な検定週間や集中講義や補講などを行うよう改善していく

③ 特記事項

- ・平成 26 年度より学生による授業評価の見直しが完了。また、実習先(企業)と実習生(学生)による相互評価を実施している。
- ・総合演習や業界論などを通じて、業界の講師においてさらなるキャリアラダーの構築を行い特に AT コース中心に行う必要がある。また卒業後のフォローが必要な職種もあるので卒業生サポートも必要である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- カリキュラムについて、国家技能検定(フィットネスクラブマネジメント技能検定)も入ってきたので、その案内を生徒にきちんと伝えていくべき。
⇒大手企業は必須で持っていないと入れない企業もある。

○資格取得についての体制

- ・資格が卒業後どのように活かせるか分からない生徒が在学中多い。
- ・資格を取得することで将来の職業にどのように活かせるかを在学中に教えてもらえると、資格取得へのモチベーションも上がるのではないかと(特にモチベーションの低い学生)
- ・卒業生講話は進路を決める上で役立つと思われる。
- ・昨年度AT試験は6人中3人が合格した。
- ・整形外科もATが必須になってきている。
- ・将来なりたい職業にATが本当に必要なかを在学中にきちんと把握する必要がある。
- ・AT選抜試験はATの合格率向上に効果があると考えられる。

○教員の研修制度や指導力について

- ・特に問題なし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・資格取得率の更なる向上
- ・退学者のさらなる低減
- ・卒業生の社会的活躍の情報収集と教育活動への反映
- ・退学理由をより詳しく分析して、対策を考えていく
- ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価をあまり把握していない

② 今後の改善方策

- ・資格取得への動機づけの強化及び環境面の整備
- ・退学者プロジェクトに基づき、クラス報告会の実施と退学防止事例の共有を実施
- ・就職ガイダンス、就職決起大会の中で卒業生講話を実施
- ・最初に行うスタートアッププログラムでいかに意識づけさせる事が出来るかで変わってくる。
- ・退学率 7.2%で昨年度より低下するができた クラス会議の実施や教科担当との連携を行い、保護者様との連携も図った
- ・マンネリ化しない授業の展開。毎回同じ授業展開ではなく、飽きない授業をしていく
- ・業界外での就職希望が退学につながるの、姉妹校エクステンション授業を受けられるように改善検討していく。千葉校ならではのキャリア指導(医療・保育・美容)などを検討していく

③ 特記事項

- ・退学率低減プロジェクト設立
- ・プログテストと退学率の調査実施
- ・平成 28 年度進路決定率:94.7%(平成 29 年 3 月 24 現在)
- ・平成 28 年度退学率:7.2%

④ 学校関係者評価委員会コメント

○退学率について

- ・クラスに馴染めず退学してしまった生徒が多かった。
- ・目標喪失による退学率が最も多い。
- ・人間関係と目標喪失はリンクしているのではないかと。

○実習について

- ・実習先によって(店舗によっても)モチベーションが下がる生徒が多い逆にモチベーションが

高くなる生徒もいる

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・卒業生との連携強化及び支援体制の強化
- ・保護者との連携は問題のある生徒に偏る傾向がある

② 今後の改善方策

- ・同窓会SNS「三幸リンク」の活用とそこからの情報発信
- ・定期的な保護者への連絡を実施、学校行事等の見学機会を設定
- ・課外活動、ボランティア活動中の緊急対応マニュアル作成
- ・緊急時に学生に発信できる掲示板を作成し備える。
- ・行事や海外研修で他校の学生と触れ合機会は重要

③ 特記事項

- ・保護者との連携はより連携をはかっている。
- ・卒業生同窓会に力を入れており、AT 専門 FACEBOOK を立ち上げる予定

④ 学校関係者評価委員会コメント

○課外活動に対する支援体制について

- ・部活動・サークルが少ない。

○生活環境への支援について

- ・Wi-Fiの導入により環境が良くなった

○職業教育への取り組み

- ・R-bodyとRSの連携

○人材バンクについて

- ・現在動き出している。
- ・急にチームからATの要請が来ることもある

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・更に質の高い教育をめざし、教育環境・体制を整備する

② 今後の改善方策

・社会のニーズに対応した職業教育を行うべく教育ツールを企業と連携して開発、整備する

③ 特記事項

・特になし

③ 学校関係者評価委員会コメント

・実習室のリニューアルにより生活環境が整いつつある。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・学生募集活動は適切に行っているが、入学後の学生状況や進路状況が適切に出身高校に伝えられていない

② 今後の改善方策

・首都圏地区の広報をサポートする首都圏広報室と情報を随時共有し、高校訪問にて学生の出身高校の先生方に状況を伝えてもらう

③ 特記事項

・学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基盤としている
・学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握した上で決定している

④ 学校関係者評価委員会コメント

特に問題なし。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特に問題なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・更なる法令遵守の推進

② 今後の改善方策

- ・会議や掲示物等を通じて、すべての職員に法令順守に対する啓蒙を積極的に実施していく

③ 特記事項

- ・2014年度自己評価結果より公開を開始

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特に問題なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・地域や一般の方に向けた公開講座が少ない

② 今後の改善方策

- ・地域貢献に繋がる公開講座を積極的に実施していく
- ・地域を巻き込んだ学内フィットネスクラブ実施→地域の方に参加して頂き良き関係を築く

③ 特記事項

- ・8月2日にJEFとの連携で公開講座を実施。
- ・各種大会、フェス等でストレッチブースの設置。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・多くの産学連携を実施している印象がある。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	2
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	2

① 課題

・留学生に対して、積極的な募集活動を行えていない現状がある

② 今後の改善方策

- ・留学生向けのホームページ上コンテンツの強化
- ・留学生に対する説明会、ガイダンスの実施回数を増加
- ・留学生に対する就職先の確保、母国の業界状況の把握、母国の就職斡旋等を強化する
- ・同グループに日本語学校を設立したので、協力を得る

③ 特記事項

- ・2014年度から「留学生学費減免入学」制度を実施している
- ・三幸学園でも日本語学校が創られている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特に今は留学生がいないので、良いのではないかと。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・人間性を高める教育の実践 高い現場力の醸成

「スポーツを通じて健康と楽しさを提供する人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、各学科で重点教育項目を設定し資格取得率、就職決定率などの定量的な目標と社会人基礎力、人間関係能力向上など人間性を高める目標を掲げて学内での教育カリキュラムだけではなく課外活動・ボランティア活動など現場での経験値を高める機会を作り、現場力の向上に取り組んだ。

課題としては、人材育成像を生徒が理解し、生徒自身の具体的な目標として目指す将来像を早い時期に合致させて、高いモチベーションを維持し続ける仕組みや体制を更に整備することである。

また、担任力の強化や学校全体として教務力の向上を図るとともに、退学率の低減を確実に進めていき、そのためにも教員自身が「○○だろう」という推測での行動をなくし、一人ひとりが責任感を持って行動することが求められる。また学校の取り込みや体制を全教職員に理解・浸透させていき、自己評価の結果を踏まえ、業界や地域からも信頼され必要とされる学校になれるように、課題解決に取り組みながら学校運営をしていく必要がある。

教員とのコミュニケーションツールとしてLINEとのツールとして、使用を検討していく

メールでのやりとりは今行う時代ではないが適切な距離感が大事なので内容やルールなどは距離感が寂しい部分も検討が必要。広報でのギャップを解消することが大事